

# 服飾におけるアップサイクルの普及と課題

和洋女子大学 家政学部 服飾造形学科 M.S.

## 1. 研究の背景と目的

近年、持続可能な社会を目指す取り組みが推進され、2015年には国連でSDGs（持続可能な開発目標）が採択された。その12番目の目標には、持続可能な生産消費形態を確保することが示されている。この目標との関連では、捨てられるはずだったものに付加価値をつけて、新たな製品に生まれ変わらせるアップサイクルの動きが注目されてきている。従来からの素材の再生使用（リサイクル）や、その再使用（リユース）にとどまらず、元の製品よりも高い価値のモノを生み出すことを目的としている。本研究は、このアップサイクルの現状について服飾品を中心に調査し、環境への負荷や消費者の受けとめなどを考察し、アップサイクルの長所と普及のための課題を明らかにすることを目的とする。

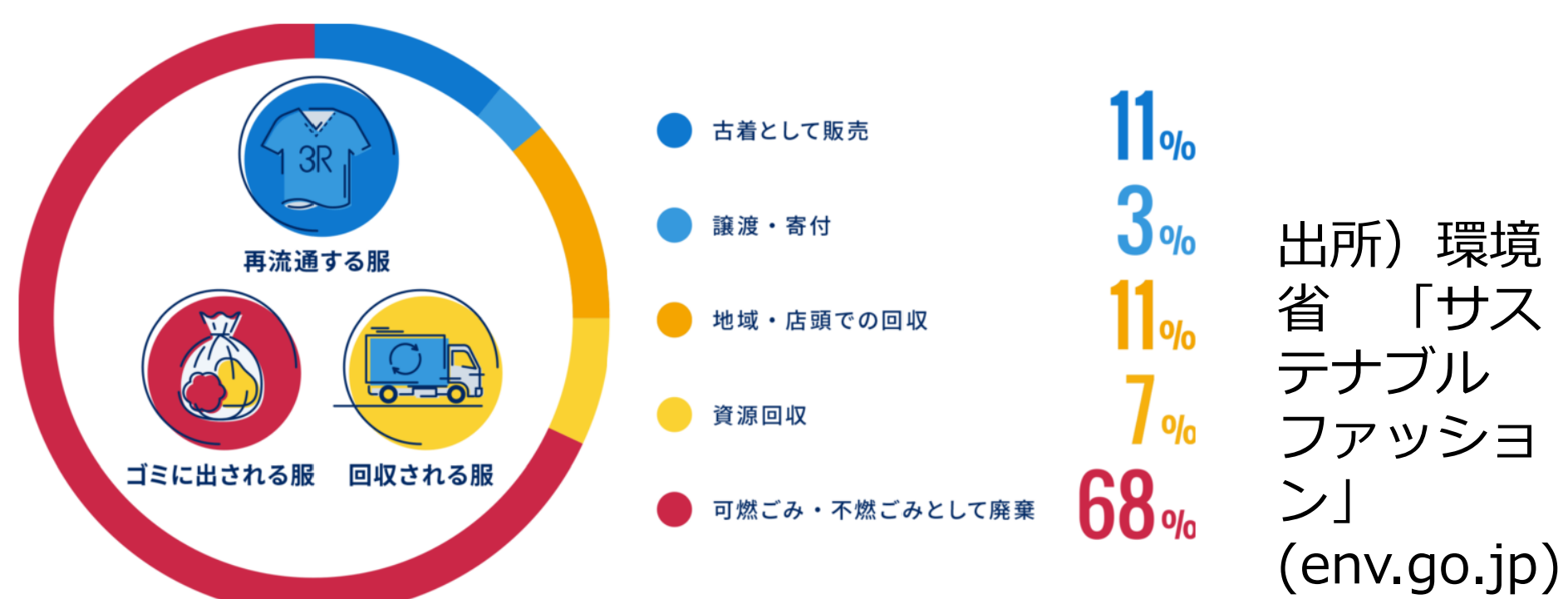


図1 服を手放す手段の分布

## 2. 研究方法

文献調査とともに、アップサイクルを行なっている30の企業や団体のWebサイトを調べ、活動内容、販売されている商品、活動の理念、販売戦略などを調査した。調査の内容から取り組みの長所と課題の分析を行った。

## 3. 結果及び考察

アップサイクルの例としては、古着をオリジナルな服に生まれ変わらせる、海岸に捨てられたプラスチックをアクセサリーにする、着物を一点ものの洋服にリメイクするなどがあげられる。

アップサイクルの長所としては、原料から作るよりも水や使用する資源が少なく環境への負荷が

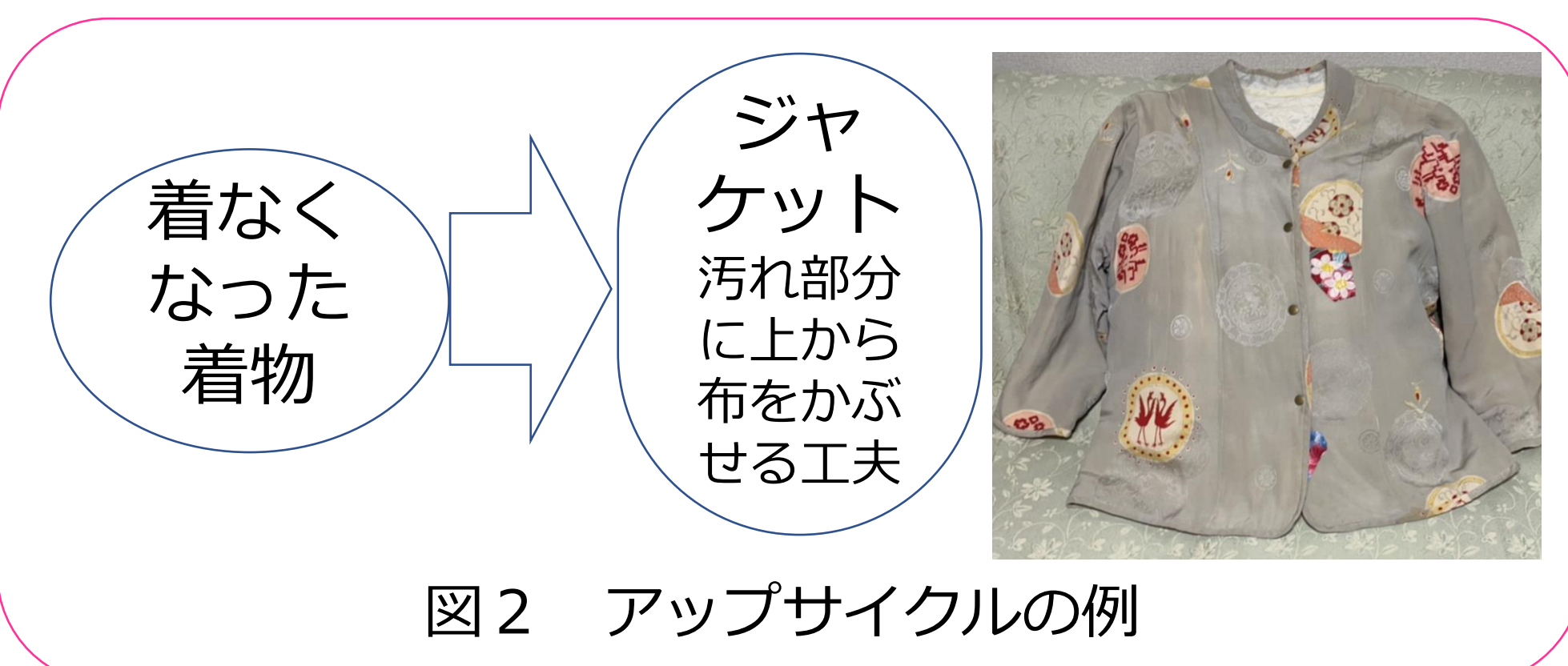


図2 アップサイクルの例

少ない、ゴミになるプラスチックの再利用でゴミの削減につながる、製品在庫だけでなく生地在庫も活用しゴミの削減につながる、タンスの奥の着物を洋服や小物にリメイクすることにより、伝統文化の継承につながる、黒染めの手法でもとの汚れを隠し、独特な風合いが出せるなどの長所があげられる。

課題としては、古着や廃棄物を加工するための技術が必要であり、熟練した職人の確保が課題である。また、ヴィンテージ品やリユース品は一点一点手間をかけて加工しており、大量生産や複数サイズの製品の生産が難しく安価ではない。消費者のニーズに応える生産体制の確保が課題である。しかし、一点ものということは長所でもあり、アップサイクル製品への消費者の理解も求められる。なお、商品化に必要な原料・材料の回収量を増やすことで解決できる商品もあり、商品の開発・普及のための取り組みが必要である。

表1 アップサイクルの長所と課題

アップサイクル前	アップサイクル後	長所	課題
【生地】 余剰布、生地 の端・端切れ	洋服、家具 用ファブリック、靴	・廃棄ロスを減らす ・糸や染色から製作するよりも環境負荷が少ない	・必要な材料の回収量を増やさなければならない
【製品】 中古、余り在庫、古着、着物	一点ものの洋服、黒染、靴	・デッドストックを一点ものの商品へとよみがえらせる ・汚れや破れがあるものを靴にリメイクしたり、黒染をすることで新たに活用できる	・一点もののため手間や時間がかかる ・価格が高くなる
【廃棄材】 ビニール傘、マイクロプラスチック、タイヤ、シートベルト、工場のゴミ	靴、アクセサリー、帽子	・ゴミを削減できる ・循環可能な製品となる ・元の製品の特性を活かし、それをさらに丈夫にし品質を向上させた製品となる	・業界の垣根を超えた協働が難しい ・余材、廃材利用だと製品の色等にバラつきがでる

## 4. 総括

アップサイクルは、ゴミの削減、環境負荷の少ない製造工程など、持続可能な社会の実現のための重要な取り組みである。消費者はアップサイクルの商品の付加価値を理解し、企業側はアップサイクルを普及するために廃棄物の回収、製品化を促進するとともに、デザイン性・機能性など消費者のニーズを把握することが課題である。